



イイダ傘店が
KIITOにやって来た。

連載企画
神戸ぐらしはじめました。
〇〇さんの神戸めし：米山まゆみさん
世界のデザイン都市ガイド「トリノ」

神戸への移住、最近増えているそうです。
神戸に越して間もないあの人に、気になる質問をぶつけてみました。



イラスト：安藤美菜 (MITO.097)

Q.神戸暮らしの楽しみは？
金：大学時代は神戸で暮らしていました。神戸には趣味やセンスの合うお店があるんです。今の家に引っ越してからは、朝と夕方聞こえる漁船の音が時計代わり。神戸らしい楽しみといえば、お魚が美味しいこと。市場に魚を買いに行くと、見たこともない魚が売られていて、値段も信じられないくらい安く驚かされます。改修の際にこだわったキッチンが大活躍しています。
三浦：二人とも飲んだり食べたりすることが好き

なんです。近所にあるお好み焼きと串焼きが美味しい居酒屋も行きつけの一つ。まちの人たちが集うコミュニティ感あふれるお店で、ここで知りあった電気屋さんに修理に来てもらったり、居酒屋から繋がったまちの人たちにいろいろと助けられています。何度かお店で会ったらもう顔なじみ。この人との距離感が魅力的なんですよ。

神戸ぐらしはじめました。

15人目
金セツピヨルさん
(文化人類学研究者)
三浦裕介さん
(会社員)
神戸歴：2年4カ月(取材時点)



10年間眠っていたモダンなコンクリート軒家を購入。大改修を経て生まれ変わった家にご夫婦と猫2匹でお引っ越し。DJブース、キムチ専用冷蔵庫など好きが詰まった暮らしを満喫中。

99 米山まゆみさんの神戸めし

グリルー平 新開地本店の「オムライス」



米山さんが自分でカフェをオープンすると決めてから数年、飲食のノウハウを学んだのが「グリルー平」。半分の卵で巻く薄焼きのオムライスは、デミグラスソースの仕込みもこだわりぬいた一品。厳しくも優しいシェフやスタッフのみなさんとの縁は今も続いており、毎年新年の挨拶としてお店を訪れているのだそう。店内にはシェフの人柄がそのまま表れたような優しい空気が流れていました。

グリルー平 新開地本店【新開地】
兵庫県神戸市兵庫区新開地2-5-5 リオ神戸 2F

15. 米山まゆみさん
(トースター)



カフェ「トースター」の店主。
KIITOでは「ちびっこうべ」にシェフチームクリエイターとして参加。

5問でわかる世界のデザイン都市ガイド

デザイン都市って何？世界の「デザイン都市」担当者に共通の質問を投げかけて解きほぐします。第22回は、自動車のフィアット(FIAT)本社もあるイタリア有数の工業都市、トリノから。

Q1「ここぞデザイン都市！」というスポット / Q2トリノのまちを舞台にした作品のおススメ / Q3最近、一番驚いたこと / Q4ハマっていること / Q5デザインをひと言でいえば

Vol.22 イタリア・トリノ | Torino

- 1 イギリスの建築家、ノーマン・フォスターが設計した「トリノ大学 ルイーダ・エイナウディ」キャンパス。法学部と政治学部を中心とした学生が学ぶこの施設は、大学と地域との間に新しいつながりを生み出しました。
- 2 映画『ミニミニ大作戦(The Italian Job)』。トリノを舞台に、天才的強盗が金塊強奪に挑むアクションで、ユニオンジャックカラーのイギリスの小型車・ミニクーパー3台が、イタリア警察のアルファロメオと歴史的地区でカーチェイスを展開します。1969年製作。2003年にハリウッドでリメイクされました。

- 3 自然がつくりだす色やかたち、特にポー川沿いの季節の移り変わりに驚かされます。
- 4 自然からのポジティブな感情を可能なかぎり感じとること。近年、私はできるだけ多くの時間を自然環境で過ごすようにしています。そして、人間が真似しようとするこの自然の完璧さにいつも驚かされます。驚きや好奇心はポジティブな感情であり、できるだけ持っていたほうが良いと考えています。
- 5 創造性と変化

👤 答えてくれた人
Fiorenza Coraさん
トリノ市役所でユネスコ創造都市ネットワーク・デザイン都市のプロジェクトを担当しています。この仕事大好きです！



今号のデザイナー | 角谷 慶 1980年和歌山県生まれ。2015年に兵庫県芦屋川にデザインオフィス「Su-」を開設。https://su-u.jp

KIITO NEWSLETTER VOL.035

2023年2月発行

「KIITO NEWSLETTER」は、デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)が年4回発行する情報誌です。センターのコンセプトである+クリエイティブな活動を発信していきます。

発行：デザイン・クリエイティブセンター神戸
編集：竹内厚(Re.SI.KIITO出版部)
デザイン：角谷 慶
写真：原 祥子

KIITO+

ACCESS
阪急・阪神神戸三宮駅、JR三ノ宮駅より
フラワーロードを南へ徒歩20分
国道2号線を超えた神戸税関東向かい
神戸市営地下鉄海岸線三宮・花時計前駅より徒歩10分
ポートライナー貿易センター駅より徒歩10分
※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

CONTACT
デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)
〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4
TEL: 078-325-2235
E-mail: info@kiito.jp
開館時間：9:00-21:00
休館日：月曜日(祝日、振替休日の場合はその翌日) 年末年始12/29-1/3
https://kiito.jp/



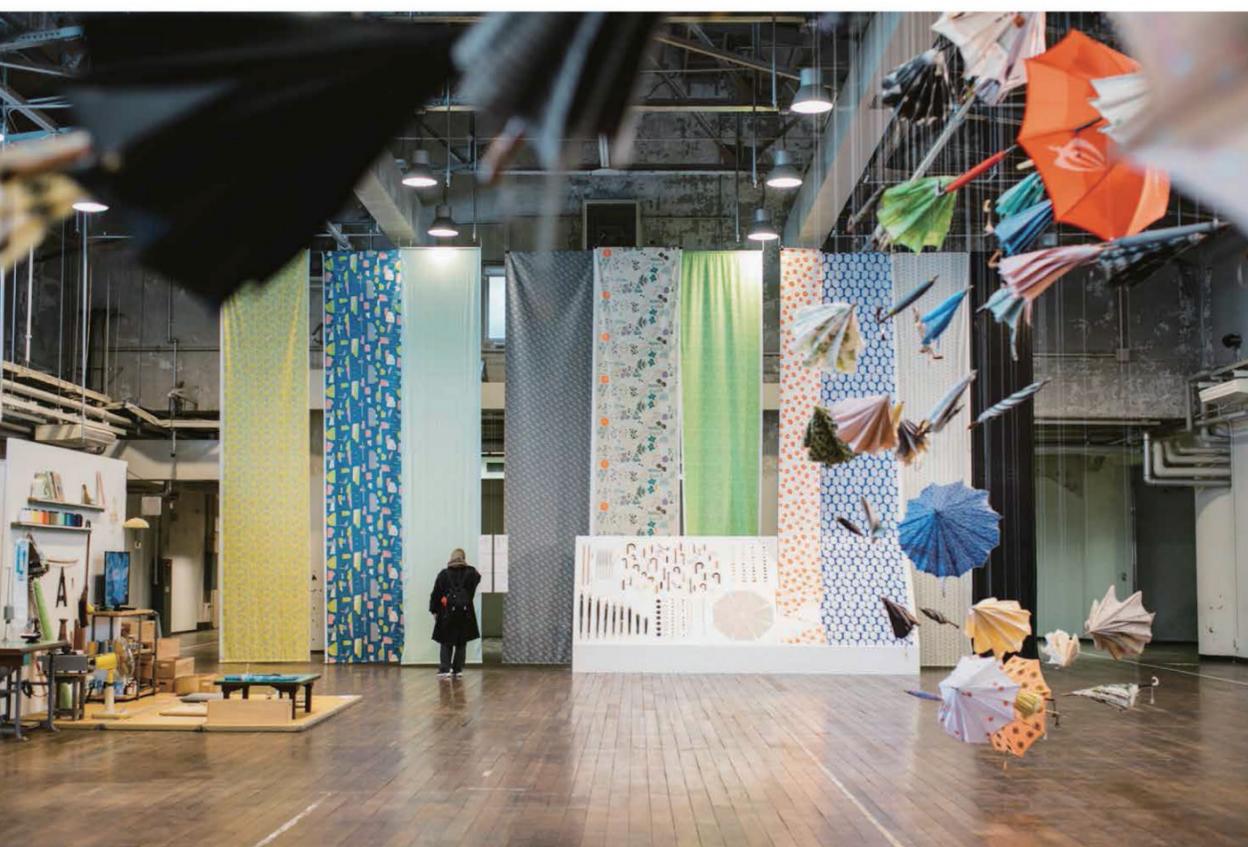
飯田純久による神戸滞在日記
2022年11月29日火曜日 ※展覧会3日前

「あいにくの雨だ……」とつぶやいたかどうかは覚えていないが、少なくとも心の中でつぶやきながら、新神戸の駅に着いた。こういうシチュエーションでは何かと雨男呼ばわりされることが多い傘屋だが、当人からしたらみんなと同じように晴れの日も雨の日も毎日やってるのだ。
昨日から神戸入りしているスクエアフォアの設営リーダー・オダキ君を追いかけのように、KIITOへバスで直行。傘を持ち合わせていない僕にとっては、どしゃ降りのなか目的地までバスで濡れずに来られるなんて幸運だと思いつつ、バス停から建物入り口までの5メートルほどでびしょ濡れになってしまった。遅刻気味の僕は急いで中に入ると、遅刻せずに先に到着していた企画担当hesoのストちゃん「イイダさんが雨を連れてやってきた！笑」と迎えてくれた。オダキ君が脚立の上から「雨ですな、さすが傘屋さんですね」。僕は心の中で「やめてくれ……」と思いながら2人に「ありがとうございます」と挨拶をした。KIITOホールに目をやると、これから天井に吊るレールが「傘の鳥」のレイアウトに合わせて床に並べてあり、まだ空っぽのホールの空間にたくさんの傘の鳥が飛んでいるのが見えたような気がした。

※展覧会初日までの滞在日記をKIITOのHPにて公開中 →https://kiito.jp/



イイダ傘店「翳すーかざすー」
会期：2022年12月2日(金)～2023年1月9日(月・祝)
場所：KIITOホール、ギャラリーA、北玄閣



イイダ傘店 飯田さんのQ&A

KIITOでの展覧会へ訪れた来場者から飯田さんへの質問を募集しました。集まったのは、展示に関することから飯田さんの日常を問いかけるようなものまで。編集部で選んだ8つの質問に答えいただきました。

A. 新鮮な質問ですね。実はあの鳥のように展示した傘は、自分自身のような気がしているんです。17年間、自分なりに悩みながらつくってきたものたち、まさに自分自身が飛んでいると思えば、「無邪気な心を忘れずにこれからも飛んでいってくれ」と声をかけたいですね。

Q. 羽ばたこうとしている傘たちにはどんな言葉をかけたいですか？
(257本の傘を鳥の群れに見立てた展示を見て)

A. 好物をただデザインしているといった安易なものではないと思いたいけど、日頃から自分が気になるものの引き出しに入っているのは間違いないので、結果的にはそんなのかな(笑)。厳密には、糸の素材や布の触り心地などから考え始めて、それに合わせてモチーフを考えるという順番。なので、たとえば「のり弁」柄の日傘をつくったときには、デコボコとした素材の立体感にあったモチーフを考え、のり弁が自分の中から出てきた。ということは、やっぱり僕が食いたん坊なだけなのか…。

Q. おでん柄のテキスタイル、かわいいです。食べ物系の柄は飯田さんの好物でしょうか？

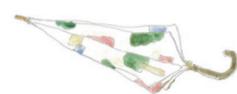
A. デザインのためとかではなく、普段からスケッチを描いています。スケッチのために時間をとるといよりは、通勤途中や子どもと出かけた日曜日なんか、気になるものを見つくとスケッチしています。写真を撮る感覚にも近いかな。たとえば、葉っぱの上に水滴が乗っている景色でも、言葉でメモするだけだったらその出来事の詳細でしかないですけど、絵にしておけば色やディテール、水のころころ具合まで思い出せます。あと、絵にするのは時間がかかるので、その間にさらに発見が深まることも。水滴の中に虹色がある！とか。あくまでも日記や記録として描いているスケッチですけど、テキスタイルのモチーフを考えなければいけないという時には、それが参考のひとつになるんです。

Q. テキスタイルのアイデアはどう発想されるのですか？

A. 傘にしたい、ええ、五感の中では触感や触り心地です。テキスタイルデザインは、グラフィック的に見られることも多いですが、つくり手の立場としては触れるモノであることが特徴的だと思っています。特に日傘ではいろんな触感のバリエーションに挑戦してきました。

Q. 傘に乗って飛んでいくならどこへ行きますか？

A. スニョの近所を散歩していたら、宮崎行きのフェリーを見かけました。普段は電車や飛行機に慣れているからこそ、船がすごく好きで、特に神戸〜宮崎みたいな定期船には積極的に乗りたくて。傘は自分だと考えているので、傘になって宮崎行きのフェリー上空からついでいきたいですね。



Q. 雨が降らなくなっても傘をつくり続けますか？

A. はい。半分は日傘なので。太陽がなくなくなったら別の仕事を探しますが、僕だけじゃなくいろいろな人が大変ですね。



Q. これからの傘づくりで挑戦したいことはありますか？

A. 店舗を持たないオーダーの傘屋という前例のない形で17年やってきて、昔に比べると修理の依頼が増えてくるなど、変化してきたところもあります。これを超えるためにはどうしていけばいいかを考えることもまた挑戦だなと感じています。今回、実現した傘の鳥のような展示も、これで終わりではなく、さらに発展させた形でまた考えていきたいですね。

取材文・竹内厚 写真・原祥子

(表紙) 飯田純久さんによる日々のスケッチ／(大写真) 257本の傘を鳥に見立てたインスタレーション／(中写真) 会場奥に吊るされたオリジナルのテキスタイル。その下には、傘に使われるパーツや部品がグラフィカルに並ぶ／(下の写真左から) 過去の展示会DMやスナップ写真の展示／飯田純久さんが日々描いているスケッチやメモ、テキスタイルになる前の原画たち／神戸家具を展示什器として活用／会場入口の様子。出迎えるように二重張りの日傘「こもれび」が／会場で行われたオーダー会のワンシーン。テキスタイルの絵柄や手元を、じっくりと鑑賞する様子。選ぶ参加者の様子。印象的



What's on

デザインの可能性を紐解く連続企画

様々な分野で活躍されるクリエイターから、自身の活動やデザインの考え方についてうかがうトークイベントシリーズ「Designers」。23、24回目となる今回は、MTRL / FabCafe Kyotoの木下浩佑さんをインタビューに迎えて、「素材と技術」をテーマに開催。モノの価値や美的感覚の変化などを話題に、モノに囲まれて暮らす私たちがデザインをどのように捉えることができるかについて考えます。

Designers23/24
素材と技術から導く、デザインのシグナル
 2023年1月27日(金) 19:00~21:00
 2月18日(土) 18:00~20:00
 インタビューア: 木下浩佑(ロフトワーク、MTRL / FabCafe Kyoto)
 ゲスト(23): 秋山かおり(STUDIO BYCOLOR) 三田地博史(新工芸舎)
 ゲスト(24): 小瀬古智之、守田篤史・和田由里子(ペーパーバレード)

インタビューを務める木下浩佑さん

News

10周年のKIITO、大公開

KIITOに入居するデザイナーや建築家たちの仕事場=クリエイティブラボを特別公開するプログラム「オープンKIITO」。クリエイターによるワークショップやトークイベント、限定ショップのほか、建物の歴史やロケ地を紹介する館内ツアーを開催します。普段見ることのできないKIITOの一面を、是非のぞいてみてください。

オープンKIITO

2023年3月5日(日) 11:00~17:00
 会場: KIITO館内各所
 料金: 無料
 (一部ワークショップや販売は有料)

©坂下丈太郎

Report

パンじい、コーヒーチームが講座に出演!

KIITO発のシニア男性向けプログラムで、長く活動を続けている「パンじい」や「コーヒーチーム」のメンバーが地域の講座へ出演しました。プログラムへの参加動機や今までの特訓過程、イベント出店の様子について話しながら、コーヒーの淹れ方の実演も。「新しい学びを地域や家族など誰かのために活かすことが、健康や若さにつながり、生きがいになっている」と熱く語られていました。

これからの人生が面白い!! セカンドライフ応援講座

2022年9月13日(火) 神戸市中央区役所
 主催: 社会福祉法人 神戸市中央区社会福祉協議会 中央区ボランティアセンター

集まれ北区メズ! 地域の男塾

2022年12月1日(木)
 コープ北鈴蘭台 きたすずららす
 主催: 社会福祉法人 神戸市中央区社会福祉協議会、コープこうべ第4地区本部